

はにい

てんていきらい

平成24年6月11日

大学の先生が、学生を一人連れて登壇しました。
ここから数十分、会場の空気がみるみる張り詰め
て行きました。



「去年の6月から、スクールライフサポーター
(学生ボランティア)として、私は小学校へ行
きました。」

——結局、3月まで週1回その学校に通ったんですね。

「はい。」

——今日は、そのときの話を、これからボランティアで小学校へ行こうとしている会場の
みなさんに話していただけますか？

「はい。」

「はじめは、『すごくみんな元気で明るくて、楽しく過ごせるだろうな』という、ちょっと
安易な考えで行ったんです。でも、実際、小学校に行ってみると、3年生のそのクラスには
じっとしてられない2人の子がいました。その2人はクラスの仲間とけんかが絶えなくて、
男の子の方は授業中に立ち歩いていたし、乱暴で、髪を引っ張ったりだとか、ちょっと肩が
触れただけでカッとなる子でした。女の子の方は、学級に馴染めなくて、やはり、授業中
立ち歩いてる感じで、私はその2人に付きっきりになりました。」

——その男の子のことで困ったことはどういうことですか。

「ちょっと目を離すと、気持ちがおさえられずに、うなり声を上げて、手をつけられなくな
ってしまうんです。私も蹴られたり、足を踏まれたり、髪を引っ張られたり……。」

——女の子はどんな感じでした？

「なぜか若い先生に警戒心があって、すぐに廊下とかに出て泣き始めて、金切り声をあげて
しまったり……。」

——朝は教室に来るんですか？

「朝は、教室にはなかなか入ってくれずに、やっと学校に来たと思っても、保健室に行って
しまい、保健室まで迎えに行ってお教室に連れて行く、そんな感じでした。」

——どうやって教室に連れて行くんですか。

「なかなか歩いていけないんです。『おんぶして、おんぶして』って言うので、おん
ぶして連れて行きました。」

——甘えるんだ。

「そうですね、しゃべり方も幼稚な感じで、先生のこと、『てんてい』っていう感じ
でした。」

——その、『おんぶして、おんぶして』って言うようになるまでには時間

がかかりましたか。

「それは、結構時間かかりました。最初は、話しかけても、『先生嫌い、先生嫌い』そう『てんていきらい』って言って、もう完璧に拒絶されてました。私はこの2人のことで手一杯で、ほかの子と関わることもできなくて、他の学校でスクールライフサポーターをやった友達が小学校は楽しかったっていうのを聞いて、ショックでした。」

——ところで、その子たちとどう関わったのですか？

「男の子は、理科にすごい興味をもっているのがわかったので。というのは国語とか算数のときも理科の本を出してるのに気がついたんです。それで、理科の話とかするようになったら、いろいろ話せるようになってきました。」

——なるほど、その子の興味のあることを聞いていったんですね。

「はい。女の子は、折り紙に興味をもっていることがわかったので、ある日、花の形のペンダントを折り紙で作ってあげたんです。そしたら、すごく喜んでくれて、『私も作りたい』って言うので、教えたんです。それがきっかけでした。」

——それで、その子が荒れるというか、逃げていってしまうようなときの、その子の気持ちで、なにかわかるようなところありました？

「甘えたいんだなあ、って言うのはわかりました。追っかけてきておんぶして欲しい、おんぶして連れ戻して欲しい、っていうのがわかりました。」

先生、追っかけてきて欲しい。

だから逃げる。

——その子から最後にもらった手紙があるんですって？

「はい。今でも読むと、うるうるきちゃうんですけど。読みます。」

一年間ありがとう

おんぶしてもらってありがとう

先生にあえてほんとうによかったです

先生といるとき楽しかったです

大学がんばってください

おうえんしています

だいすきです

かながわ元気な学校づくり通信 『はにい』とは、

学校が元気になるように……

先生の仕事を受ける

学校に携わる大人たちがしていることを受ける

そして、もちろん子どもたちの育ちを受け取る

そんな、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。

専用メールアドレス: inochi4027@pref.kanagawa.jp